

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シュウエール流山		
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日		～ 令和8年4月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日		～ 令和8年4月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 30名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多種多様な集団活動を準備している	5領域やお芝居、ダンスを基に子ども達が意欲的に取り組めるよう工夫している。また、成功体験を重ねることで自信を持って活動に取り組むことができるよう、自己肯定感が高まるような声掛けを心がけている。	感覚統合や言語療法(集団/個別)での支援、SSTや公共の場での活動練習を取り入れていく。
2	集団活動の中に学習要素を取り入れ、楽しく学習に取り組めるよう工夫している。また、机上での学習も実施し個々にあった学習教材を提供している	職員で個々の発達特性を共有し、個々にあった教材や活動内容を提供している。集団活動の際には集団ルールのほか、楽しみながら学習へ取り組めるよう遊びの中に組み込むプログラムを構成している。	「遊び+活動+発達特性に応じた支援+学習」を合わせたプログラムが考案できるよう、専門性の向上を図るための職員研修等を毎月実施している。
3	専門職(言語聴覚士)がいる	専門職による小集団、個別での言語プログラムを取り入れコミュニケーション能力の向上や対話することの楽しみを見出すことができる。	言語聴覚士監修のもと、日常生活の中にも言語練習の機会を取り入れ継続的な支援をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	所在地が分かりにくい	開発地区の住宅地の教室を構えているため、所在地が分かりにくい。	目標になる近くの建築物をお伝えし、ご案内していく。
2	部屋が狭い	一軒家を教室として使用しているため、活動フロアが狭く室内での活動に限界がある。	近隣に流山運動公園があるため、天気の良い日には公園に出向き、身体を動かす機会を設けている
3	職員の経験の未熟さ	福祉・療育の経験のない職員が多く、臨機応変に対応することやパニックになった際等の対応ができる職員が偏ってしまう。	社内研修定期的に実施し、療育や対応方法を学ぶ。また、社外研修の案内を随時し、自己研鑽できるように案内をしていく。